西国三十三霊場巡りマラニック
第十八番　紫雲山　頂法寺（六角堂）

フル百回楽走会
593
武藤　翔峰

二十年三月二九日

宗派は天台宗（単立）、本尊は如意輪観世音菩薩、開基は聖徳太子である。聖徳太子が用明天皇2年(587年)に四天王寺建立の用材を求め、この地を訪れたとき、泉を見つけ水浴したと伝えられている。そのとき護持仏をそばの木にかけたが、これが木から離れなくなったという。その夜、夢のお告げがあり、護持仏の観音がここに留まることを望むというので、六角形の堂を建て観音を安置したと伝えられ、これが頂法寺の創始とされている。弘仁13年(822年)には嵯峨天皇の勅願所となり、長徳2年(996年)には花山法皇の行幸があり、西国三十三ヶ所観音霊場となった。「本堂」を上空から見ると、その形が六角形であることから、「頂法寺」という正式名称よりも「六角堂」のほうが一般的な呼び名になっている。
「本堂」の西側には小さな石仏群があり、桜もちょうど満開でとても風情のある景色だった。
今日の予定はここまでであったが、帰りのバスの時刻までにはまだ時間があったので、世界遺産の東寺を訪れることにした。